新聞で見る地域の出来事

2001年

村民が市町村合併考える

美麻村で初の懇談会

美麻村と北安曇地方事務所は16日、同村基幹集落センターで「美麻村の明日を語る住民懇談会」と題した、市町村合併に関する懇談会を開いた。（中略）村議や行政関係者をはじめ一般村民など約50人が参加。（中略）

続いて、村が平成12年度歳入歳出決算表をもとに、「国の方針のため地方交付税が減少する傾向にある」と厳しい財政事情を話した。参加した村民たちからは、市町村合併に関して「市町村合併を行うことで美麻がどのように良くなるのか」、「合併しなかった場合、村の財政はどうなるのか。具体的に示してほしい」、「合併した場合、議員の議席数は」など、さまざまな質問や意見が寄せられた。

（2001.10.19）

2002年

年内に報告まとめる方針

専門調査部会設置へ

大北7市町村でつくる北アルプス広域連合（連合長＝腰原愛正大町市長）は30日、各市町村の助役、担当課長らで構成する「市町村合併に関する懇談会」の初会合を大町市の大北福祉会館で開き、今年末までに住民の判断資料となる調査結果をまとめる方針を決めた。（2002.5.1）

美麻村で合併問題講演会

賛否の立場から話聞く

美麻村は5日と8日、市町村合併問題についての講演会を村基幹集落センターで開いた。（中略）5日は、慎重派として、青森県三戸郡三戸町の茂木政信総務課長が講演した。（中略）茂木課長は講演で、「究極の自治体の形は村。財政効率だけで合併論議をしてはならない」と話した。

8日は推進派として、関西学院大学大学院の小西砂千夫教授が講演した。総務省の市町村合併推進会議委員などを務める小西教授は、（中略）合併は財政問題より、役所そのものの強化が目的」と、合併によるステップアップの必要性を説いた。（中略）今回の講演会は村ケーブルテレビで全村放送された。村の未来を決める問題に、村民一人一人判断する材料となったようだ。

（2002.8.10）

「意識調査を参考」

美麻村大北合併への参加

美麻村議会12月定例会は19日、一般質問を行った。（一部既報）吉沢義夫村長は、市町村合併問題について、「個人的には、村として単独で残っていくのが一番良い」としながらも、「国の方向性としてこれまでの多額の交付税が下りなくなって何もできなくなる恐れがあり『それでもいいのか』は疑問」と、合併せずに単独で残るのは難しい見解を示した。「たとえば、合併しても旧自治体に地域振興局のようなものを作り、限られた財源の中でポイントを絞って、地域の良さを生かしていく」との案もあげた。

（2002.12.21）

2003年

厳しい村財政の将来

美麻村がシミュレーション 最厳案で16年度に赤字へ

美麻村はこのほど、平成27年度までの村税財政シミュレーションを（中略）作成した。国の方針が示されないため、あくまでも予測値だが、厳しい村財政状況を浮き彫りにした。

A案は現在の交付税制度をベースにしたもので、歳入不足にはならないものの、来年度が最も厳しく、歳入歳出の差額が2万5千円まで落ち込み、再度平成22年にも大きな落ち込みが予想される。（中略）C案は交付税総額が35・4％減と見込むなど最も厳しい見方をしたもので、平成17年から赤字に転落し、（中略）平成18年度には6億800万円近い赤字が出る見込みとなる。今後、市町村合併問題が問われる中、住民が判断を下す際のデータとなる。

（2002.12.25）

任意協に3村参加

大町市の腰原愛正市長（北アルプス広域連合長）は、20日、市町村合併の大北の現状について記者会見し、北安6町村の、任意合併協議会への参加の可否について「美麻、白馬、小谷の3村は『参加したい』、池田、松川、八坂の3町村は『今後開く臨時議会や全協で決定したい』との返事をいただいた」と述べた。

（2003.1.21）

任意合併協へ参加

吉沢村長が正式表明

美麻村の吉沢義夫村長は24日、同村議会全員協議会で（中略）任意合併協議会へ加わる方針を正式に表明した。（中略）吉沢村長は、「どのような枠組みになるかわからないが、議会の方針も尊重した結果。理想は7市町村での合併だったが、現実に動けるところでやっていかなければ」と話している。（2003.2.27）

3市村で大北任意合併協

大町、八坂、美麻で設立
3市村で大北任意合併協
白馬、小谷は当面「留保」に

大町市、八坂村、美麻村でつくる「大北地域任意合併協議会」の設立総会は15日、大町市役所で開き、3市村から関係者が出席した。

冒頭腰原愛正大町市長は「昨年4月に北アルプス広域連合で、合併に関する研究会を立ち上げ、今回、3市村での設立となった。財政問題に対する重要で有効な手段として、住民ニーズにも応えるもっとも良い方法として合併をとらえ、一時的には苦しみを伴うが、一つずつ乗り越え、新たな枠の中で手を取り合い、新しい地域づくりを目指したい」とあいさつした。（中略）

大日向一繁八坂村長や、吉沢義夫美麻村長もあいさつし、「大町市、八坂村、美麻村は、そこに住む誰もが心豊かに生きがいをもって暮らすことができる21世紀を築くため」などを内容とした合意書に調印、がっちりと握手を交わした。

（2003.3.16）

合併問題や県の姿勢

美麻村で田中知事とかたる会

「美麻村の合併問題を田中知事とかたる会」は17日同村ぽかぽかランド美遊で開いた。合併に対し慎重な立場をとる住民有志らが実行委員会を作り、田中康夫知事を招いて開催した。

村内をはじめ、同村と任意合併協議会をつくる大町市と八坂村、また近隣の小川村や大岡村などから、２００人を超える住民が参加。（中略）

合併問題や県の姿勢
田中知事とかたる会

田中知事は「国は地方交付税制度の見通しについて明らかにしていないが、もっともらしく合併推進の理由とされている。任意合併協ができたからといって合併が決まったわけではありません」と話し、自立への道を勧めた。

県の取り組みについて、「積極的に自立の意思を示す首長を住民が選んでいる自治体には支援を考えていきたい。地域の人も首長や議会任せでなく、自ら行動して県に伝えていく必要もある」とした。

（2003.4.20）

ひざを交えて意見交換

合併地区懇談会始まる

美麻村の合併問題地区懇談会は14日始まった。

8月11日まで18回にわたり、北沢伊紘男村長や職員が4月の村長選の公約通り、村内の各集落をまわって村民とひざを突き合わせて意見交換する。（中略）

14日は千見地区の千見高齢者センターで開き、境の宮、外山、本村東の3集落16戸から住民16人が参加。高い関心を見せた。（中略）

北沢村長は、なぜ合併問題が浮上しているのか、村財政の状況、任意協の協議内容など、村を取り巻く状況について説明し、みなさんとひざを交え話していきたい」と意見を求めた。参加者からは「千見地区は大町から遠く、先細りしてしまう。公営住宅など将来への構想を持った施策を」、「合併しても将来的に人が減り学校などがなくなる可能性が不安」、「若い人たちや主婦に向けた懇談会も開いてほしい」などの意見が出され、熱のこもった懇談会となった。

住民投票の実現を求める声も上がり、「合併に向かう流れもある中、反対派の方も活発に活動している。遺恨を残さないためにも、自分たちの意思で決めたいという形がほしい」と訴えた。村長はそれぞれの質問に丁寧に返答し、現状での村の判断と今後の対応について答えた。

（2003.7.17）

編入合併の方針

八坂・美麻　大町市に意向伝える

八坂、美麻両村議会は10月31日、それぞれ全員協議会を開き、大町市との合併方式について協議し、「編入合併」の方針を決めた。八坂村の勝野一由議長、大日向一繁村長、美麻村の北沢幸忠議長、北沢伊紘男村長が大町市役所で、同市の腰原愛正市長、諏訪光昭議長と共に記者会見し、3市村でつくる任意合併協議会で6日、正式決定することを明らかにした。

北沢村長は「住民福祉向上へ対等な立場で議論したい」と話した。

（2003.11.2）

住民投票条例を請求

合併問題で有志が提出

市町村問題について、美麻村の有志でつくる「美麻村合併を考える会」（宮田公夫代表）は5日、合併に関して住民から是非を問う住民投票条例制定請求書を北沢伊紘男村長に提出した。（中略）請求書に記載された条例案は、同村が大町市と八坂村と合併することの賛否について二者択一で投票するというもの。

請求書は有権者の50分の1の署名を集めることで受理され、村長の意見書を添えて議会に提出される。同村では約20人の署名が必要。

住民投票条例を請求
合併問題で有志が提出

宮田代表（68）＝青具＝は、「村の行方を左右する重大な問題で、住民の声をしっかりとした形で確認しなければ。投票を通して村民の総意で決めたいという声も大きい」と話している。

北沢村長は、「懇談会などを通して住民に説明してきたが、まだまだ十分な情報が行き渡っていない。この状態での投票は混乱を生み、禍根を残す可能性もある。4月に選ばれたばかりの議員の声も住民の声として尊重したい」と慎重な姿勢を見せた。

（2003.11.6）

「法定」移行を可決

村議は「在任特例」適用へ

大町市と八坂村、美麻村の3市村でつくる大北地域任意合併協議会（会長・腰原愛正大町市長）は26日午後、大町市役所で9回目の会合を開き、法定合併協議会に移行する方針を決めた。また、議会議員の定数と任期の取り扱いでは、編入合併に伴い失職する八坂、美麻両村議会議員について、「在任特例」を選択することを決めた。（中略）

編入合併の場合の議会議員の「在任特例」は、八坂、美麻両村会議員（いずれも定数10）が、大町市議会議員の残任期間に合わせて在任することができるもので、全会一致で適用を決めた。任期は市会議員の任期の平成19年4月29日までで、議員数は合わせて42人となる。

（2003.11.28）

「法定」移行を可決
村議は「在任特例」適用へ

2004年

住民投票で合併の可否を

市町村合併問題について、美麻村で合併の是非を問う住民投票の実現を求めていた村内有志による「美麻村合併を考える会」（宮田公夫代表）は15日、条例制定請求書と村内有権者297人の署名を北沢伊紘男村長に提出し受理された。北沢村長は条例案に意見書を添え、今月下旬に行われる臨時議会に提出する。

（2004.1.16）

署名を添え直接請求

請求書に記載された条例案は、同村が大町市と八坂村と合併することの可否について、18歳以上の村民が二者択一で投票するというもの。村議会と村長、住民はこの結果を尊重しなければならないとしている。同会は村の合併問題が住民と離れたところで議論されているとし、合併の賛否にかかわらず民意を問うため住民投票を求めた。直接請求には有権者の50分の1の署名が必要で、11月から1か月間署名活動を行い今月6日から7日間の縦覧を経ている。

住民投票で合併の可否を
署名添え直接請求
「考える会」が条例求める
合併問題

宮田代表（69）＝青具＝は、「肩に署名の重みを感じている。村民の願いが実現できるように願っています」と村長に署名を手渡した。

北沢村長は、「単純な可否を問う投票の場合は強力な運動で意見がゆがめられる危険が伴う。正しい情報に基づいた冷静な判断ができるのか」と懸念を示し、「みなさんが村民の代表である議員と対話することも大切」と話した。

同村12月議会では、議員発議による合併についての住民投票条例請求案が却下されている。

合併問題真剣に

美麻村の有志による「美麻村合併を考える会」（宮田公夫代表）は14日、「知恵と勇気と元気を運んでくれる出前講座」を村基幹センターで開いた。約60人の住民が参加し、合併開題について学んだ。

（中略）村民からは自立の可能性や合併後の地域自治組織の実現などについて質問が出された。

（2004.1.16）

合併問題真剣に
県の「出前講座」に60人
美麻村
合併問題についての県の出前講座

住民投票条例案を否決

美麻村臨時議会7対2

美麻村議会は2日、議会臨時会の最終日で、村内有志による「美麻村合併を考える会」（宮田公夫代表）が住民投票条例の実現を求めて提出した直接請求を受けて上程されていた条例制定案件について7対2の反対多数で否決した。

同会は合併の可否を問う住民投票条例の制定を求めて、有権者の約3分の1にあたる297人の署名を添えて条例案を提出。北沢伊紘男村長は慎重意見を付して議会に上程。同議会は条例制定審査特別委員会（小林忠夫委員長）を設置し、請求代表者の意見陳述などを踏まえ、31日に8対1の反対多数で否決していた。

（2004.2.3）

合併協設立総会開く

2月1日に法定協議会を設置した「大町市・八坂村・美麻村合併協議会」は4日、大町市役所で第1回目の会合を開いた。（中略）平成17年3月までの合併を目指す協議スケジュールを決めたほか、会長に腰原愛正・大町市長、副会長に大日向一繁・八坂村長

と北沢伊紘男・美麻村長を選出した。腰原会長は、同協議会の今後の開催地について「3月に美麻村、4月には八坂村、5月にはまた大町市で開催するとともに、終了後の夜は、協議会として地域住民との意見交換会や懇談会を計画したい」と提案して了承された。（2004.2.5）

美麻村で初の合併協

大町市と八坂村、美麻村でつくる合併協議会は24日、法定協議会に移行して3回目の会合を美麻村ぽかぽかランド美遊で開いた。同協議会が合併協議を大町市以外で行うのは初めてで、美麻や八坂の住民にも身近に感じてもらおうという狙い。

合併協に引き続いて行われた住民懇談会には約50人の村民が参加。合併協議に関する疑問点や質問について説明が行われた。

住民からは、特例を用いて両村の議員が在任することについて「行政コストの削減に矛盾するのでは」と疑問の声が上がった。腰原会長は「合併後にも多くの検討点が残り、多くの目で見守っていただく必要がある。住民に感じていただく安心感につながる」と答えた。事務局は「議員歳費の大部分は交付税でまかなわれ、新市の負担にはならない」と説明した。（中略）地域自治組織については、腰原会長は「新市になれば、従来の区域からどのように意見を上げていくのかが大切。個人的には美麻、八坂には必要と思う」と答え、新市建設計画の中での検討課題とした。

美麻村で初の合併協
大糸 2市村 新市名の意見募集へ
懇談会で質問相次ぐ

地域審議会設置を提案

（2004.3.26）

大町市・八坂村・美麻村合併協議会は21日、八坂村コミュニティセンター「アキツ」で4回目の会合を開き、八坂、美麻地区への地域審議会の設置と新市名決定のための住民アンケートを提案した。（中略）地域審議会は、市条例で定める任意の自治組織で、合併に伴う急激な変化に対応し、地域の特色を尊重したまちづくりを目指すために設置するとした。地域の意見集約や住民と行政の協働体制の構築、新市の一体感の醸成などを進めるとしている。

組織は、地区内の各種団体で構成。地域の声を行政に届ける役割を持ち、合併した場合に旧自治体単位で、持続可能な集落機能の維持強化に努める。（2004.4.22）

ボランティアが自治勉強

地域づくりで意見交換

美麻村の有志で姉妹都市との交流事業に取り組んできた「美麻・メンドシーノ交流ボランティアネットワーク」（吉田裕一会長）は4日、地域自治組織について考える勉強会の第1回を開いた。合併後に住民主体による美麻の「地域づくり」を行う組織や交流の在り方について考えていく。

同村の特徴的な国際交流事業を発展させてきた同ネットワークの活動と実績を基礎に、合併後の村づくりを進める組織を作れないかと、会員の前川浩一さん（42）が呼びかけて開いた。会員と村の若手職員ら約15人が参加し、活発に意見を交わした。

ボラネットが自治勉強
美麻村 地域づくりで意見交換

（中略）前川さんは「住民から活発に声を出し、力を結集する方法に地域自治組織という形があるのではないか。地域づくりのあり方を考え提言していきたい」と話した。

大町市・八坂村・美麻村合併協議会の担当者を招き、合併後の同事業のあり方と地審議会などについて審議された内容の説明を聞いた。（2004.6.6）

新市名「大町市」に決定

大町市・八坂村・美麻村合併協議会は23日、美麻村ぽかぽかランド美遊で6回目の会合を開き、新市名称を「大町市」に決めた。

新市名については、同協議会が全国から名称を公募し、集まった1万7357点から小委員会が8つに絞り込み、さらに同協議会で4つを選び、住民アンケートを実施した。

アンケートの結果は「大町市」以外で、「北アルプス市」が13・83％、「北安曇野市」が3・07％「仁科市」が5・09％だった。（2004.6.24）

まちづくり条例学ぶ講演

美麻村の「美麻地域づくりミーティング」は21日午後2時から、北海道の酪農学園大学で自治体論を研究する河合博司教授の講演会を大町市のフレンドプラザで開く。

「まちづくり条例を考える」をテーマに、北海道ニセコ町の事例に、合併後の新市の地域自治のあり方を考える。参加費は資料代500円。（2004.8.19）

村民有志 協働自治学ぶ

美麻村の有志や若手職員が合併後の地域自治を考える「地域づくりミーティング」は、12日、江戸川大学の鈴木輝隆助教授の講演会を村基幹

村民有志 協働自治学ぶ
美麻村 地域づくり講演会
美麻村の有志や若手職員が合併後の地域自治を考える「地域づくり」などについて、住民のアイデアで地域ぐるみの自治を盛り上げた長野市松代町などの事例を挙げた。
鈴木助教授が講演

集落センターで開いた。鈴木教授は、数々の地域づくりの事例を紹介し、行政に頼らない、住民の意思がはっきりとしたまちづくりの重要性を話した。

鈴木教授は各地のまちづくりにかかわった経験から、「住民自治と行政の協働」をテーマに講演。昭和の大合併後に周辺地域となり、住民の力で地域ぐるみで自治を盛り上げた長野市松代町などの事例を挙げた。

これまでの行政に頼りがちな地域自治を「おまかせ民主主義」と指摘。住民自ら考え、自分の意思を出せることが大切とし、「経済が縮小していく中で豊かな生活を問う時代。幸せが実感できる地域経営が必要」と説いた。

村内外から約30人が参加。合併後のメンドシーノ交流について質問が出され、鈴木助教授は「特徴ある事業は実績を再評価し、実績を論理的に説明できれば方法はある」と話し、地域振興については「いい時間を過ごすことが重要なキーワード。暮らしている人のライフスタイルを見せていくことが必要」とした。

（2004.10.14）

新市発足は18年1月1日
在任特例見直し再協議

大町市・八坂村・美麻村合併協議会（法定協）第10回目の会合を大町市役所で開き、合併の期日を平成18年1月1日とすることを決めた。また大町市議会が提出した、議員の在任特例を見直す「調整事項に対する再検討」の要望について、次回以降の協議会で議題として取り上げることを決定した。（2004.11.27）

児童が制作ケーブル放映

美麻小学校5年生16人は、社会科の授業で、学校の魅力を紹介するテレビ番組制作に挑んでいる。身近に情報センターがある同校ならではの初の試みで、完成した作品は年明けに村営ケーブルテレビで放送される予定。番組は「学校のいいところベストテン」をテーマに、北アルプスの景観や小中併設校ならではの取り組み、楽しい先生などの魅力を紹介する。児童たちは自分たちで考えながら、企画から取材、編集の作業に取り組んでいる。

2005年

定数特例に不安の声

大町市・八坂村・美麻村合併協議会で進む合併協議で、美麻村は村内5か所で合併問題の住民説明会が始まり、これまでに協議された事項について説明している。初日に千見地区の千見高齢者センターで開いた説明会では、新市の現議員の取り扱いが在任特例から」定数特例になったことについて、住民から不安の声が上がっていた。

（2005.1.19）

合併協定に調印

来年1月1日を合併の期日としている大町市・八坂村・美麻村の法定合併協議会は8日、大町市役所で14回目の会合を開き、合併協定書の調印を行った。平成15年3月に任意合併協を設置して本格的に協議をスタート。16年2月に法定合併協に移行し具体的協議を重ね、八坂村、美麻村を大町市に編入することで合意している。これまでの合併推進から、今後は合併に向けて準備段階に入る。

大町 八坂 美麻 合併協定書に調印
名称「大町市」など40
近く県知事に申請予定

（2005.2.9）

美麻村会が合併議案可決

大町市、八坂村、美麻村の合併協定調印を受けた美麻村村議会は12日、臨時会を開き、3市村で初めて合併関連議案を議決した。

議案は、平成18年1月1日に両村を廃し、大町市に編入することを県知事に申請する内容で、欠席の1人を除き賛成8の全会一致で可決した。

北沢伊紘男村長は、「今後は新市として美麻の特色をいかし、合併してよかったと思えるような地域づくりができることを願っている」と述べた。

質疑では合併協定の内容について、教育や除雪など住民生活に関わることを中心に質問が上がった。

合併に伴い、両村の財産を大町市に帰属する議案や議会議員の定数特例を採用する経過措置についての議案も可決した。

（2005.2.19）

知事に合併申請

来年1月1日の合併の議決を終えた大町市・八坂村・美麻村合併協議会は25日、田中康夫知事あてに合併を申請した。

知事に合併申請
大町・八坂・美麻の協議会

（2005.2.26）